

「急いでいるときこそ一呼吸 譲る気持ちで運転を」 H26年度最優秀交通安全標語
年の瀬となり、慌しくなってくる時期となりました。

逸る気持ちになりがちですが、車に乗るときは心にゆとりを持ちながら運転をお願いいたします。
年末年始には普段訪問していない客先にも訪問する機会が多くなるとは思いますが、なれていない道や
地域特性(雪や凍結など)がありますので、十分に注意を払って下さい。

又、通勤時、凍結する場所が発生する時期でもあります。

そこで、今回は凍結路と積雪・降雪路の危険性と安全走行のポイントをお知らせします。

1. 安全運転のポイント

凍結路面や積雪路面は滑りやすく、停止距離が長くなる上に、ブレーキ操作やハンドル操作時にスリップする
恐れがあります。又、降雪や雪煙で視界も悪くなり危険の発見が遅れます。

■凍結路の危険性と安全走行のポイント

■凍結路面は発見が遅れやすい

凍結路面は積雪路面よりも滑りやすく、ブレーキ操作やハンドル
操作のわずかなミスでスリップする危険があります。しかも、凍結路
面は積雪路と違って見分けにくい為に発見も遅れがちになり、スリッ
プして初めて凍結に気付くというケースもあります。路面の状態によ
り目を配り、凍結路面を早めに発見するよう努めましょう。



■こんな場所が凍結しやすい

次の場所は、特に凍結しやすいといわれていますから、スピードを
落とす、前車との車間距離を長くするなど慎重な運転を心掛けましょ
う。

- 橋の上
- トンネルの出入口
- 交差点の手前やカーブの手前などのブレーキをよく踏むところ
- 切り通し(山や丘陵などの間を切り開いて通した道)
- 山間部などの日陰になっているところ

また、それ以外の場所でも、気温の下がる深夜から明け方にか
けては、路面が凍結している恐れがありますから注意しましょう。



■トンネル内でも凍結していることがある

トンネルの中は雨も雪も降らないため、路面が凍結することはない
ように思えますが、走行車両の落とした雪のために路面が凍結して
いることがあります。高速道路や山間部のトンネルを走行するとき
は、路面の状態に注意を払いましょう。又、トンネルの入口は凍結し
ていなくても出口は凍結していることがありますから、その点にも注
意が必要です。



■積雪・降雪路の危険性と安全走行のポイント

■降雪時でなくても視界が悪くなることもある

降雪時は、前方の視界が悪くなるだけでなく、サイドミラーやリアウ
ィンドーガラスやミラーの雪を取り除きましょう。

又、雪が降っていない場合でも、周囲に積もっている雪が強風に
煽られて舞い上がり(これを「地吹雪」といいます)、前方の視界がさ
えぎられたり、対向してくる大型車が巻き上げる雪煙によって視界
がさえぎられることがあります。地吹雪が予測される場所や、大型



車が接近してきたときは、あらかじめワイパーを作動させるなどして視界の確保に努めましょう。

■路面標示が見えなくなる

降雪時では、センターラインや一時停止線などの路面標示が見えなくなるだけでなく、車道と路肩や側溝の見分けもつかなくなります。そのため特にカーブでは対向車線にはみ出して対向車と衝突したり、左側に寄り過ぎて側溝に落ちてしまう危険がありますから、注意しましょう。

■強いブレーキはスリップをまねく

積雪路や降雪路は停止距離が長くなります。そのため、前方の交差点が赤信号の場合や、見通しの悪い交差点に接近したときなどに減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に進入したり、信号待ちで停止している車に追突する危険があります。

このようなときに、停止しようとしてブレーキを強く踏むとスリップを招く危険がありますから、赤信号の交差点や「止まれ」の標識のある交差点に接近するときは、あらかじめ減速して進行するとともに、ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにしましょう。



2. 今月のスローガン(企業開発センター交通問題研究室)

酒飲んでハンドル握る その先は破滅に導く 一本道

